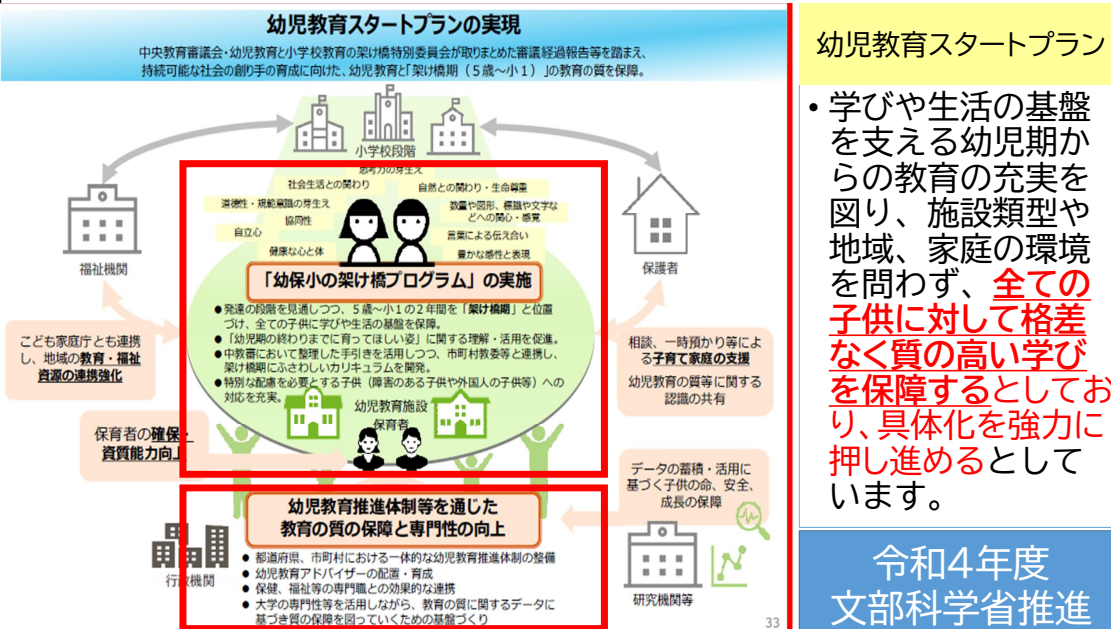


令和4年度

行政説明

発達と学びの連続性を保障する 幼児教育・保育

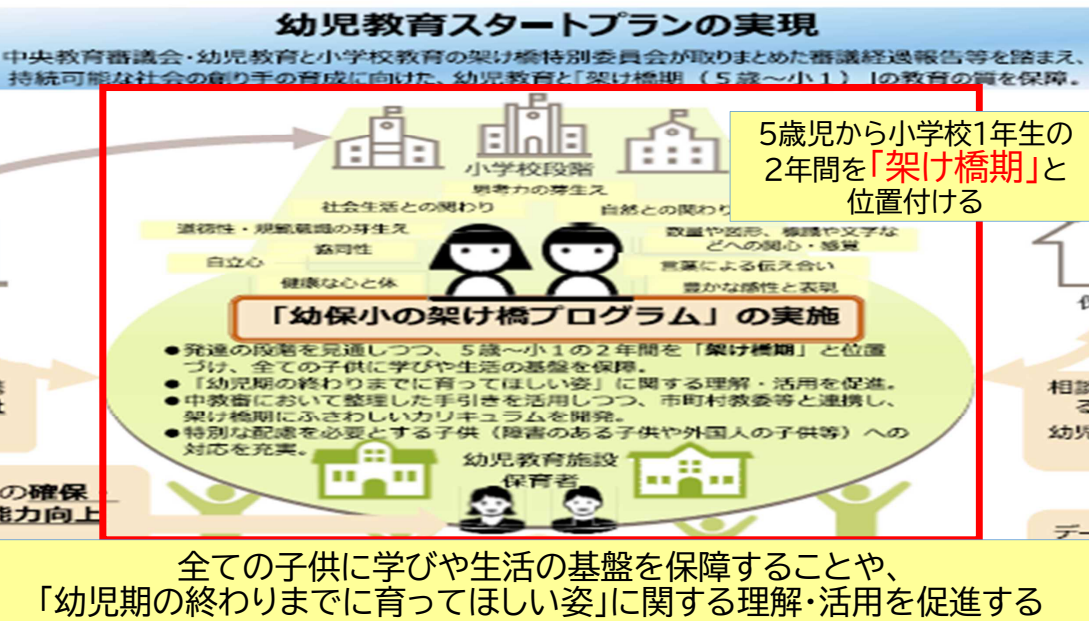
県教育庁義務教育課幼児教育班



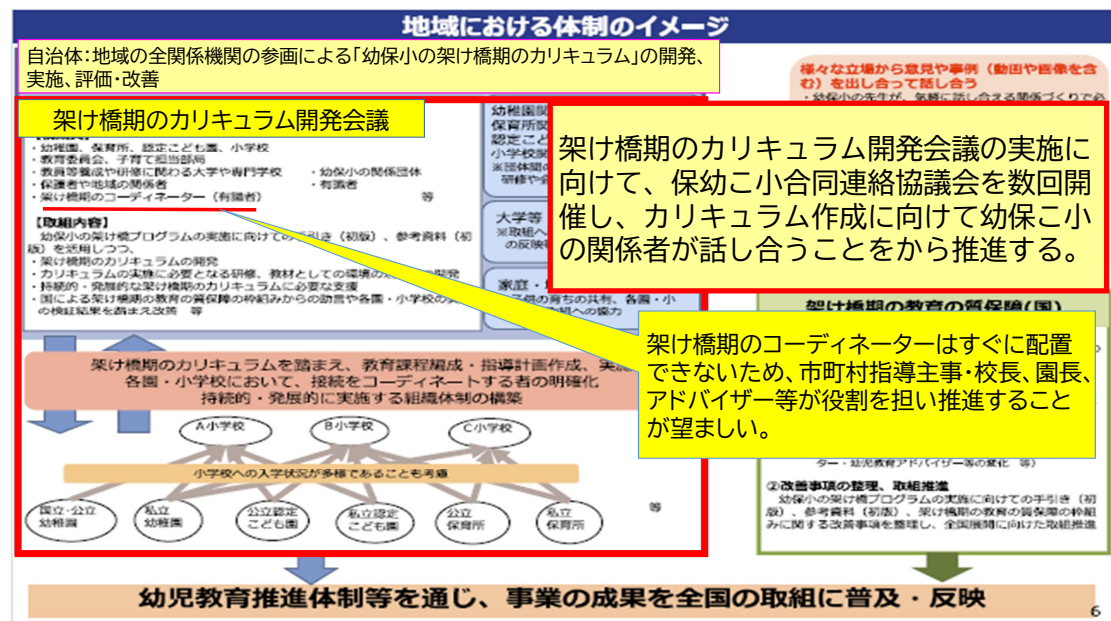
幼児教育スタートプラン

- 学びや生活の基盤を支える幼児期からの教育の充実を図り、施設類型や地域、家庭の環境を問わず、**全ての**子供に対して**格差なく質の高い学びを保障**するとしており、**具体化を強力に押し進め**るとしています。

令和4年度
文部科学省推進



全ての子供に学びや生活の基盤を保障することや、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に関する理解・活用を促進する



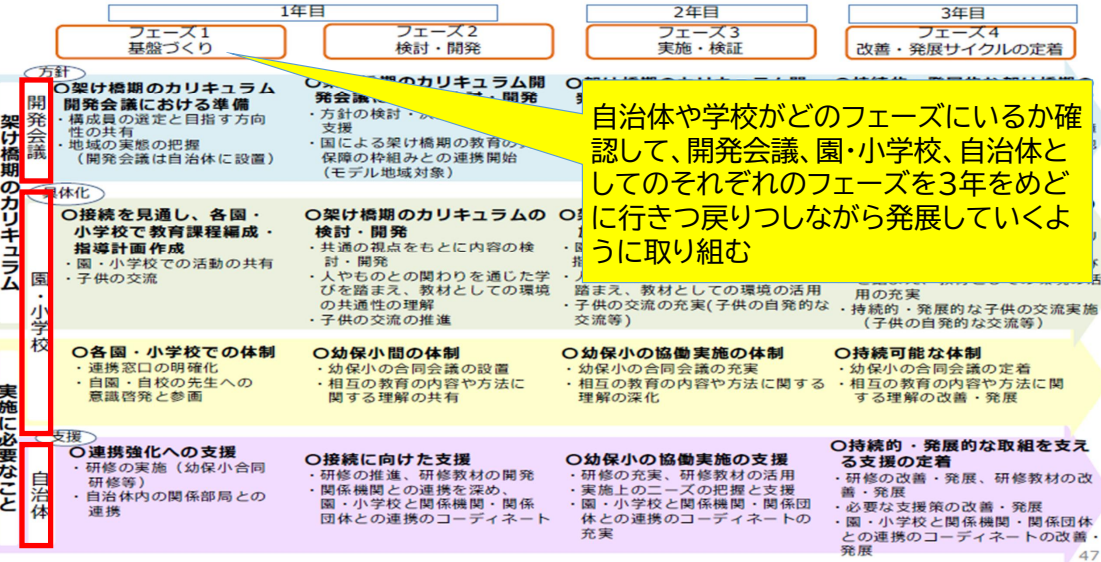
架け橋期のカリキュラム開発会議の実施に向けて、保幼小小合同連絡協議会を数回開催し、カリキュラム作成に向けて幼保こ小の関係者が話し合うことをから推進する。

架け橋期のコーディネーターはすぐに配置できないため、市町村指導主事・校長、園長、アドバイザー等が役割を担い推進することが望ましい。

幼児教育推進体制等を通じ、事業の成果を全国の取組に普及・反映

進め方のイメージ

注：基礎づくりから改善・発展サイクルの定着に至るまでのプロセスの目安。実際には、地域の実態に応じ、各フェーズ間を行きつ戻りつしながら発展していく。



開発会議で開発する架け橋期のカリキュラムのイメージ

○架け橋期のカリキュラムについては、幼保小の先生が協働し、共通の視点を持って教育課程や指導計画等を具体化できるように、「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」を手掛かりとし、**育成を目指す資質・能力を視野に入**れながら**設定**できるように工夫する。そして、幼保小の先生と一緒に振り返って評価し、改善・発展させていく。
○自治体や園・小学校での工夫を促しつつ、例えば、下記のような共通の視点を整理して示すことが考えられる。

共通の視点として考えられる項目例	0歳～	5歳児	小学校1年生	小学校2年生～
①期待する子供像		4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	
②遊びや学びのプロセス				
③園で展開される活動/小学校の生活料を中心とした各教科等の単元構成等				
④指導上の配慮事項		5歳児～小学校1年生（架け橋期。0～18歳の学びの連続性に配慮）について、 ・共通の視点から考えてみよう ・既存の5歳児4月からの教育課程・指導計画を見直してみよう（架け橋期のカリキュラムにおける5歳児のカリキュラムの位置づけについても考えてみよう） ・既存の小学校1年生の教育課程・指導計画を見直してみよう（架け橋期のカリキュラムにおけるスタートカリキュラムの位置づけについても考えてみよう）		
⑤子供の交流				
⑥家庭や地域との連携				

(※) 以下「環境の構成・環境づくり」という。

開発会議で架け橋期のカリキュラムを幼保小の先生が協議して作成していきます。

市町村における幼児教育支援体制について

沖縄県における幼児教育・保育の担当部局の状況（R3）

教育委員会で一元化	教育委員会・福祉部局で二元化	福祉部局で一元化
6市町村	28市町村	7市町村

※福祉部局に一元化しても「教育委員会」の関わりは欠かせない

- ◆ 今後、架け橋期のカリキュラムを作成するためには、架け橋期のカリキュラム開発会議を開催する。
- ◆ 令和5年度に向けては、現在行っている**保幼小小合同連絡協議会**を年に5,6回開催し、**推進を図る**。
- ◆ 連携強化への支援、接続に向けた支援が、自治体におけるフェーズ1,2の取り組みとして推進につなげる。

黄金っ子応援プラン

保育所、幼稚園、認定こども園等と小学校との連携の推進

目標名	指標	単位	令和6年度目標値
保幼小小連絡協議会の設置	実施市町村数	市町村	41
幼小接続アドバイザーの配置	実施市町村数	市町村	41
保幼小小合同研修会の実施	実施市町村数	市町村	41
スタートカリキュラムの編成	実施作成率	%	100



市町村の幼児教育アドバイザー配置

国事業活用 5 市町村

(糸満市・豊見城市・南城市・伊江村・金武町)

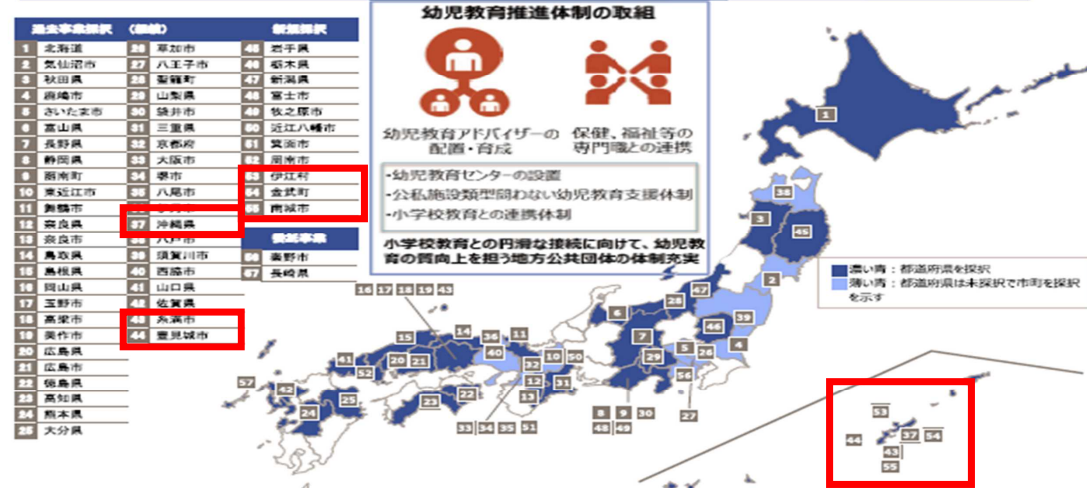
県事業活用 2 市町村

(中城村・宮古島市)

市町村独自予算

(南城市・大宜味村、名護市、八重瀬町、与那原町)

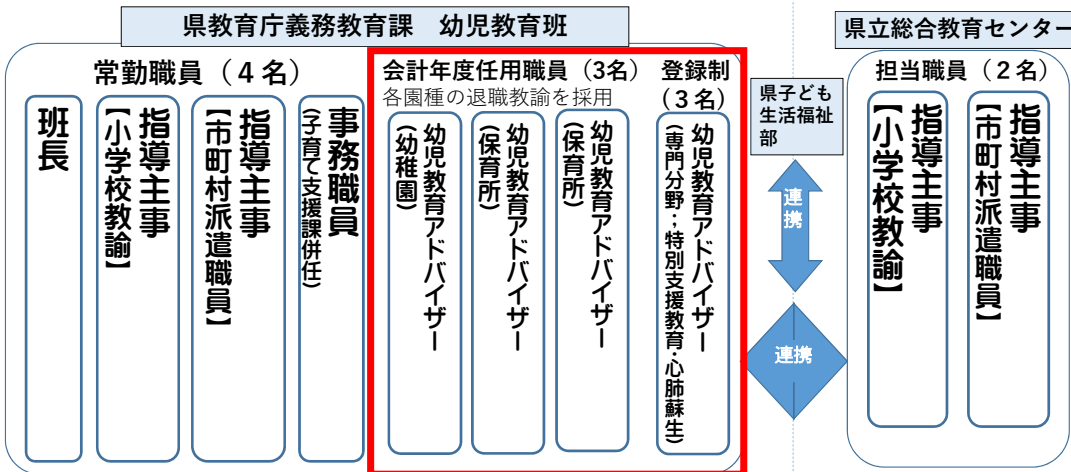
幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業



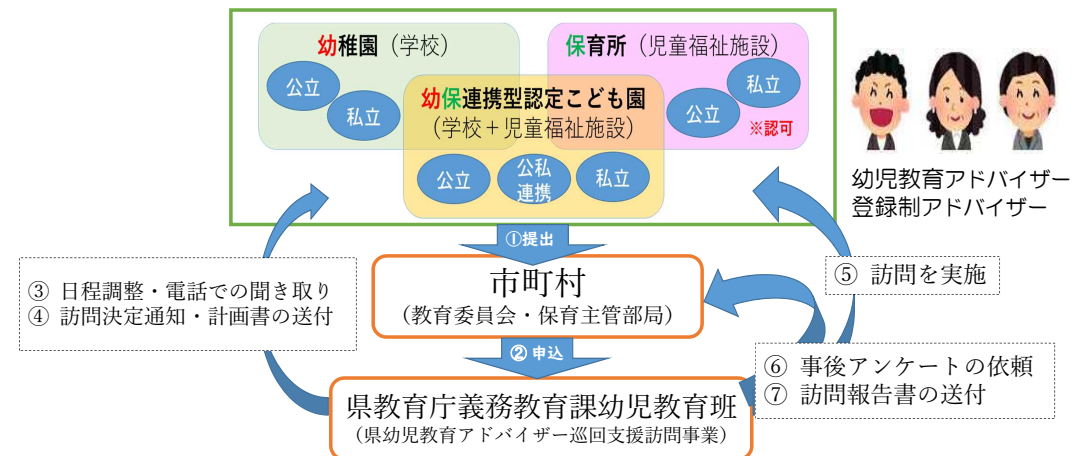
・糸満市 ・豊見城市 ・伊江村 ・金武町 ・南城市 ・県 義務教育課

幼児教育アドバイザーの配置により、地域の幼児教育に関する課題に的確な指導・助言ができ、幼児教育の質の向上が図られている

「幼児教育の質の向上」推進体制 (※網掛け部分が今回市町村から派遣募集する職種)



県幼児教育アドバイザー巡回支援訪問事業の概要



園が必要とする時期に、市町村を通じて、幼児教育班へ申し込む

令和4年度 幼児教育班の取組内容

- 「黄金っ子応援プラン(第2期:R2~R6)」 □「沖縄型幼児教育」の推進
- 法定研修等(初任研、2年研、中堅研)
- 保育士等キャリアアップ研修等
- 幼児教育連携体制推進事業(R4) ・中城村 ・宮古島市
市町村「幼小接続アドバイザー」配置のための補助事業
- 市町村幼児教育支援事業(R2~R4)
県「幼児教育アドバイザー」を配置し訪問支援を実施
- 幼児教育の理解・発展推進事業(幼児教育研究協議会、園長等運営管理協議会)
「協議主題」を全地区で取り組む
・東村 ・宜野湾市 ・那覇市 ・豊見城市 ・宮古島市 ・石垣市

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(答申)【概要】

子供の学び

幼稚園

- 小学校との円滑な接続、質の評価を通じたPDCAサイクルの構築等により、質の高い教育を提供
- 身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で達成感を味わいながら、全ての幼児が健やかに育つことができる

義務教育

- 新たに「幼児教育」の重要性に関する学習の基礎となる資質・能力の育成を義務教育課程(小・中・高)を通じて実施する
- 高の学びたいことを深められる学びの提供
- 学校のみでの児童生徒の学び合い、多様な教員と協働した探究的な学びを通じ、地域の職員の一人や主眼者としての意識の育成
- 生活や学びにわたる課題(虐待等)の早期発見等による安全・安心な学び

高等学校教育

- 社会的・職業的自立に向けて必要な基礎となる資質・能力や、社会の形成に主体的に参画するための資質・能力が育まれる
- 地方公共団体、企業、高等教育機関、国際機関、NPO等の多様な関係機関との連携・協働による地域・社会の課題解決に向けた学び
- 多様な進路・一人一人に応じた探究的な学びや、STEM教育など実社会での課題解決に生かしていくための教科等横断的な学び

特別支援教育

- 全ての教育段階において、インクルーシブ教育システムの理念を構築することを旨として行われ、全ての子どもたちが適切な教育を受けられる環境整備
- 障害のある子どもが可能な限り通常学級に受け入れられる条件整備
- 障害のある子どもの自立・社会参加を促進し、通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった連続性のある多様な学びの場の一層の充実・整備

教職員の質

- 学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続け、子供一人一人の学びを最大限に引き出し、主体的な学びを支える専任者としての役割を果たしている
- 多様な人材確保と教師の資質・能力の向上により高い教職員集団が実現し、多様なタッグチームとなり、校長のリーダーシップの下、家庭や地域と連携し、つなぐ力が発揮されている
- 働き方改革の実現や教職の魅力発信、新時代の学びを支える環境整備に教職が断力的で魅力ある仕事であることが再認識され、志願者が増加し、教師自身も志を高め、誇りを持つ働き手となっている

子供の学びや教職員を支える環境

- 小中高における1人1台端末環境の実現、デジタル教科書等の先端技術や教育データを活用できる環境の整備等による指導・支援の充実、校務の効率化、教育政策の改善・充実等
- ICTの活用環境と少人数によるきめ細かな指導体制の整備、学校施設の整備等による新しい時代の学びを支える学校教育の環境整備
- 小中連携、学校施設の複合化・共用化等の促進を通じた魅力的な教育環境の実現

幼児教育

- 小学校との円滑な接続、質の評価を通じたPDCAサイクルの構築等により、**質の高い教育を提供**
- 身近な**環境に主体的に関わり**様々な活動を楽しむ中で達成感を味わいながら、全ての幼児が**健やかに育つことができる**

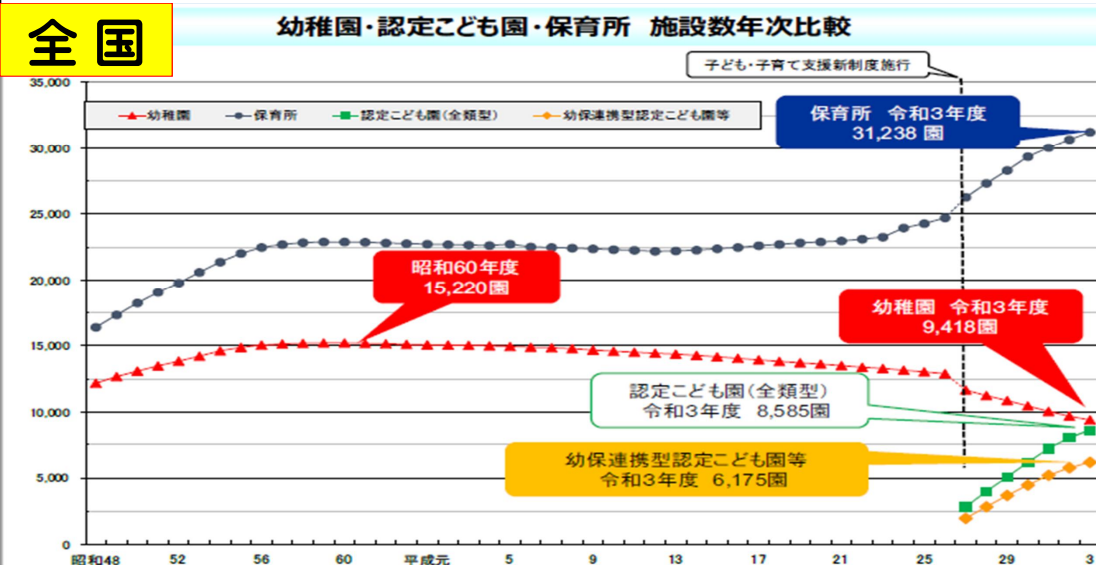
質の高い幼児教育を提供するには、市町村に幼児教育アドバイザーの配置が必要

幼児教育の質に関する認識の共有

○ 質の高い幼児教育とは何か
いわゆる早期教育や小学校教育の前倒しと誤解されがち 社会的な認識が共有されていない。

○ **身体と感覚・感性を通じた体験が必要な時期**
 幼児教育の学びの特性を、様々な研究や実践の成果に基づき知見を活用して幅広く伝える必要がある。

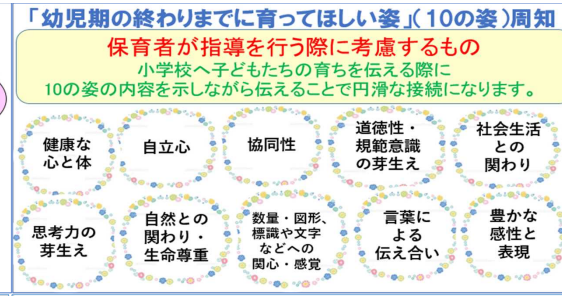
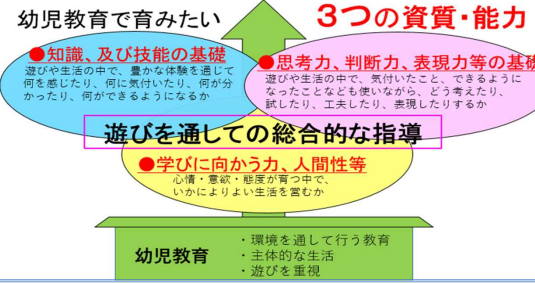
令和3年度幼稚園教育理解推進事業(中央協議会) 配付資料 質の高い幼児教育の実現に向けて



令和4年度幼児教育専門研修(第1回) 文部科学省初等中等教育局幼児教育課 課長 藤岡謙一

沖縄県の幼児教育施設数と所管 (R4.7月)

国	文部科学省		内閣府						厚生労働省							
所管	教育庁		子ども生活福祉部													
園種	幼稚園		認定こども園						保育所			地域型保育事業所				
R3	公立	私立	幼稚園型		幼保連携型		保育所型		公立	私立	公私	認可外	小規模	家庭的	事業所内	
計1	120	23	1	8	43	48	50	1	44	45	397	4	458	176	9	36
計2	143		195						446			458		221		
計3	1463															



平成29年3月告示

3歳以上の幼児教育の部分が**共通化**

文部科学省	厚生労働省	内閣府
幼稚園教育要領	保育所保育指針	認定こども園教育・保育要領
5歳	5歳	5歳
4歳	4歳	4歳
3歳	3歳	3歳
	2歳	2歳
	1歳	1歳
	0歳	0歳

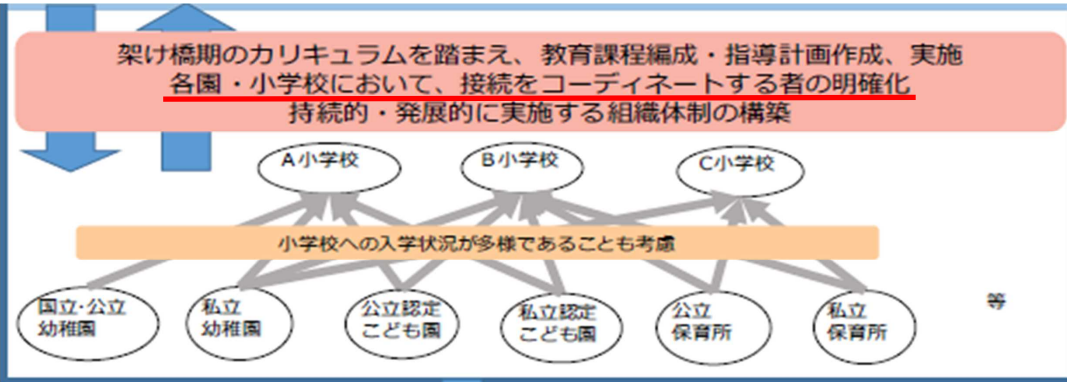
幼児教育施設として位置づけられた

どの施設でも3歳以上は「共通の教育」を行う



全ての幼児教育施設が、要領・指針に基づいた質の高い幼児教育を提供する

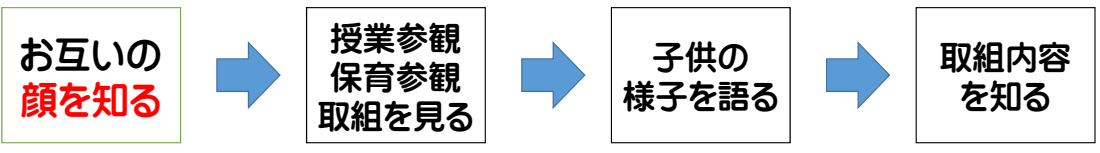
施設類型 小学校と幼児教育施設の交流を推進する



小学校へは複数の幼児教育施設から入学してきます。資質・能力は育まれていますか
接続期(アプローチ)カリキュラム、スタートカリキュラムも大切にしながら、**校長、園長、指導主事、市町村アドバイザーがコーディネーター**となって
幼小で架け橋期の開発会議を実施して架け橋期のカリキュラムを開発する

幼児教育施設と小学校との交流が推進されている地域の取り組み

小中連携にも活かせる取組です



- 幼小の連携が推進されている地域では、
- ① 保幼小の先生方がお互いの顔を知る機会がある。(合同連絡協議会)
 - ② 授業参観や保育参観が年に数回行われている。(視点を決めて参観)
 - ③ 参観後に子供の様子を語る。(振り返り)
 - ④ 教科の内容と幼児教育のつながりをお互いが知る。

小学校校区ですぐに取り組みそうなことはありませんか。
市町村教育委員会の指導主事、アドバイザー等も活用してください

生徒指導提要

幼稚園・保育所・認定こども園と小学校の教職員が交流体験や情報交換を通して、相互理解することが大切

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有し、幼児教育と小学校教育の円滑な接続について協働して考えていく必要があります。

令和4年12月 文部科学省



幼保小の接続期におけるスタートカリキュラムの位置付けや役割を踏まえ、小学校における生活や学習へのつながりを視野に検討する姿勢が求められます。

幼児教育と小学校の円滑な接続は、小学校という新たな環境においても、児童が安心して楽しく学習や生活を送ることにつながります。

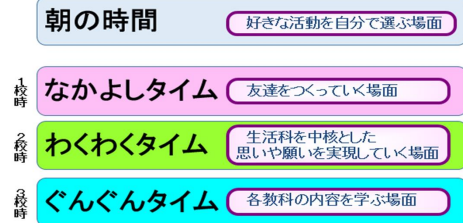
4月

子どもにとって「明日も来たい」学校とは 校長先生がスタートカリキュラムを推進

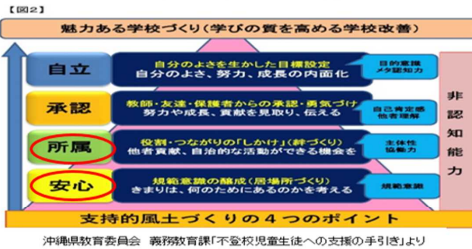


安心感 信頼できる大人がそばにいること
教職員全員が1年生に安心感を与える温かさや、自立を促す関わり方など、共通の指導感をもつこと 安心 ⇒ 成長 ⇒ 自立へ

実践例「スタートカリキュラム」ある1日の流れ（4月入学時）



コロナ禍は子供の発達にどのような影響を与えているか 安全・安心 所属



「遊びをとおした学び」から「小学校の学び」へ
生活科 総合的・関連的な指導



小学校教育との円滑な接続の推進
・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに幼小の教職員の連携促進
・スタートカリキュラムを活用した幼児教育と小学校教育との接続の一層の強化

全ての子どもに対して 格差なく質の高い学びを推進

子供のウェルビーイングを保障するカリキュラムの実現

幼児児童生徒の「生きる力」「社会的自立」に向けて

幼児期の教育は 人格形成の基礎を培い 生きる力の基礎を育む 重要な役割を担っている